

# 旬花報

24号  
令和8年3月31日  
発行  
群馬県立女子大学  
同窓会事務局  
〒370-1193  
佐波郡玉村町上之手1395-1  
TEL:0270-65-8511  
URL:https://shiou-kai.com/



同窓会長  
野村 留美子

同窓生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。同窓会の紫桜会は1999年に発足して今年度で28年目を迎えました。

会員数は現在8000人を越えました。同窓会誌「旬花報」のお届けも今回で24号目となります。

同窓会役員の仕事をしていた本当に良かったと思うことは、卒業後も大学を訪れ、現役の学生の目覚ましい活躍をつぶさに見聞きできることです。

いつも学生の頑張りに感動し、元気をいただいております。

そして微力ながら母校のために尽力できますことを今、心から幸せに感じています。

同窓会活動を円滑に進められるのも卒業生のご協力、ご支援があつてこそと、常々痛感しております。ご都合の良いときに懐かしい学び舎を訪れ、気軽に同窓会活動に参加してくださいませよう、心より願っております。

これからもご支援・ご協力のほど、よろしく願いたします。

## ユリノ木物語

錦野祭の会場を歩いていると「ユリノ木物語」という看板が目にとまりました。ユリノ木って何?どんなプロジェクト?このプロジェクトが始まった頃、パネルディスプレイに登場した同窓会長に伴い、足を運んでみました。

ユリノキとは、開学記念式典で植えられた記念樹で、当初は三本あつたそうです。現在、国際コミュニケーション学部が主に使用している二号館の脇に、移植されたものうち二木が残っているそうです。

「ユリノ木物語 群馬県立女子大学の歴史研究プロジェクト」は、玉村校舎建設四十周年に当たる二〇二二年に発足し、「本学の歴史的な価値や魅力を再認識し、学内外に発信すること、本学の未来設計に寄与すること」を目的にしています。二〇二二年十月に行われた展覧会「ユリノ木物語ー開学記念樹ユリノ木と辿るキャンパス」では、開学当時、前橋市文京町に校舎が置かれていたこと、その経緯、開学から現在までのあゆみ等が紹介されました。その中で注目されたのが、玉村校舎に点在している美術作品の数々です。円形広場の中心にある噴水彫刻、建築業協会賞を受賞した校舎、春の庭にある鳩の日時計。身近にありすぎて見過ごしていたものの中に、多くの

美術作品が隠れていることが分かりました。在学していた四年間の後も、同窓会発足を機に度々訪れていた母校ですが、それでも尚知らない歴史が紡がれてきたことに感動を覚えました。プロジェクトを立ち上げ、研究を進めてこられた本学教授、藤沢桜子先生を始め、研究に携わってこられた教職員、学生の皆さんに、敬意と感謝の気持ちを表したいと思えます。今後も継続し、更なる魅力を発信していただけることを楽しみにしています。



ユリノ木物語 PT 院生メンバーたち (芸術学専攻)と藤沢先生 (中央)

「ユリノ木物語」プロジェクトロゴマーク



ユリノ木物語 イメージキャラクター



### 「ユリノ木物語」プロジェクトの詳しい情報はこちら



ユリノ木物語ー開学記念樹  
ユリノ木と辿るキャンパス



45年目のユリノキを  
みんなと



ユリノ木と群馬学

## 令和7年度紫桜賞

### 美学美術史学科 絵画ゼミ生一同

「美学美術史学科絵画ゼミ生一同」は4年生12名、3年生10名の計22名で構成されています。富士スバル株式会社との産学連携事業により、数々の制作活動を行いました。オフイスアート制作活動では、4年生の複数のメンバーの作品が富士スバル本社内展示されました。また、最優秀作品が群馬県内の富士スバル各販売店舗に展示され、社内外や顧客への企業理念のアピールに貢献しました。その他、富士スバル桐生店のスタッフが着用する夏期制服の、桐生アロハとのコラボレーションに、アロハシャツのデザインという面で貢献しました。桐生の地図を模したデザインや、桐生市の花サルビアをモチーフにしたデザインが採用され、スタッフにも好評でした。



## 同窓会カフェ

二〇二五年十一月二日、錦野祭の二日目に、恒例の「同窓会カフェ」を出店しました。今回は、前日、同窓会の臨時総会を開催したため、多くの同窓生に準備をしていただきました。ご協力、ありがとうございます。

今回のカフェでは、青と白を基調としたバルーンで装飾をし、お茶やお菓子を楽しみながら、作品も鑑賞できるように空間を作りました。

作品展には、今までのメンバーに加え、卒業二年目のメンバーも出品してくれました。世代を超えた交流を図ることができ、新メンバーや現役の大学生にも大いに刺激になったようです。

カフェでは、コーヒー、紅茶、ハーブコーディアル(ローズ、アップルジンジャー、ゴジベリー、マヌカハニー)とお菓子を提供しました。お友達さん連れのご家族、現役の大学生、教職員の方々、同窓生、保護者など、いろいろな層のお客様、一四〇名にご来店いただきました。出店している私たちにとつても、心が暖かくなる時間を過ごすことができました。

回を重ねていく中で、同窓会カフェの存在を知ってくださり、何度も足を運んでくださる方が増えてきました。今後も続けていきたいと考えていますので、是非お気軽にお立ち寄りください。



## 来店された方々から感想をいただきました

● おいしい紅茶、ありがとうございます。卒業生の作品展示も楽しめました。

● 素敵な作品でうっとりしました。販売があったら購入したいと思うものが数点ありました。

● 最近、作品作りから離れていただけ、また何か作りたくなりました。

● とても落ち着いていた空間です。居心地がよかったです。

● 同窓生ですが、卒業後の県女生の活躍や同窓会の歴史が分かってよかったです。



## 編集後記

入学した頃は、まだまだ新しかった大学も開学四十五年を超え、初期を知っている方も減ってきました。そのような中で発足したユリノ木物語。そして、同窓会カフェに飾られた過去の写真や旬花報のバックナンバーから感じた「同窓会の歴史」。あえて「作ろう」と思わなくても、一日一日を積み重ねる中で、自然と築き上げられてきたものだと思います。奇しくも、その一端に関われた幸せを感じます。

小学校を卒業する時、一九七〇年代で止まっていた歴史の年表を見ながら、「この先の歴史は皆さんがこれから見ていく社会です。」とおっしゃった、担任の先生の言葉が思い出されます。その時は「何ておおげさな。」と思いましたが、確かにそうでした。

「歴史」から「未来設計」

これからの県立女子大が更に発展していきけるよう、微力ながらお手伝いしていきたいと思えます。

(A・I)

## 「ユリノ木物語」展示パンフレット表紙(開学記念樹)

